

ハマフエフキ親魚養成

藤本 裕・金城武光・金城盛徳

はじめに

当センターは開所したばかりで、今年度は次期産卵期にむけての親魚確保、養成を行なった。合計51尾の親魚を購入し、現在(昭和59年3月末日)13尾を養成中である。

1 方法

親魚は昭和58年10月7日から同14日までの間に4回に分け、合計51尾を糸満漁協より購入し、約3時間を費して当センターまで輸送して親魚水槽に収容した。魚は全て一本釣で漁獲されたもので、釣獲から港での引渡しまでは特に慎重に取扱う様配慮されたものである。

輸送は1.5 m³容の活魚輸送タンク(直径1.4 m高さ1.0 m)に海水約1 m³と水温上昇を防ぐための水を入れ酸素を通気しながら行なった。輸送中並びに親魚水槽収容後2~3日は1日4時間エルバージュ50^〇の薬浴を実施した。

購入時の魚体測定は魚体への損傷を極力防止するため漁協職員の目測による体重だけを記録した。

親魚水槽は直径4.0 m水深2.0 m(約25 m³)の円型水槽で2面に各々27尾(No.1)、24尾(No.2)を収容し上部に遮光ネットをとり付け、毎時20 m³の海水を水平に回転する様注水した。

餌料はマダイ用にフィードオイル(3%)、E-フィードオイル(1%)、ビタミン剤(1%)を添加し、1日朝、夕2回適量投与した。

水槽の汚れに応じて随時底掃除、池替えを行なった。

昭和59年1月5日より毎夕採卵ネットを設置し翌朝とり上げて産卵の有無を観察した。

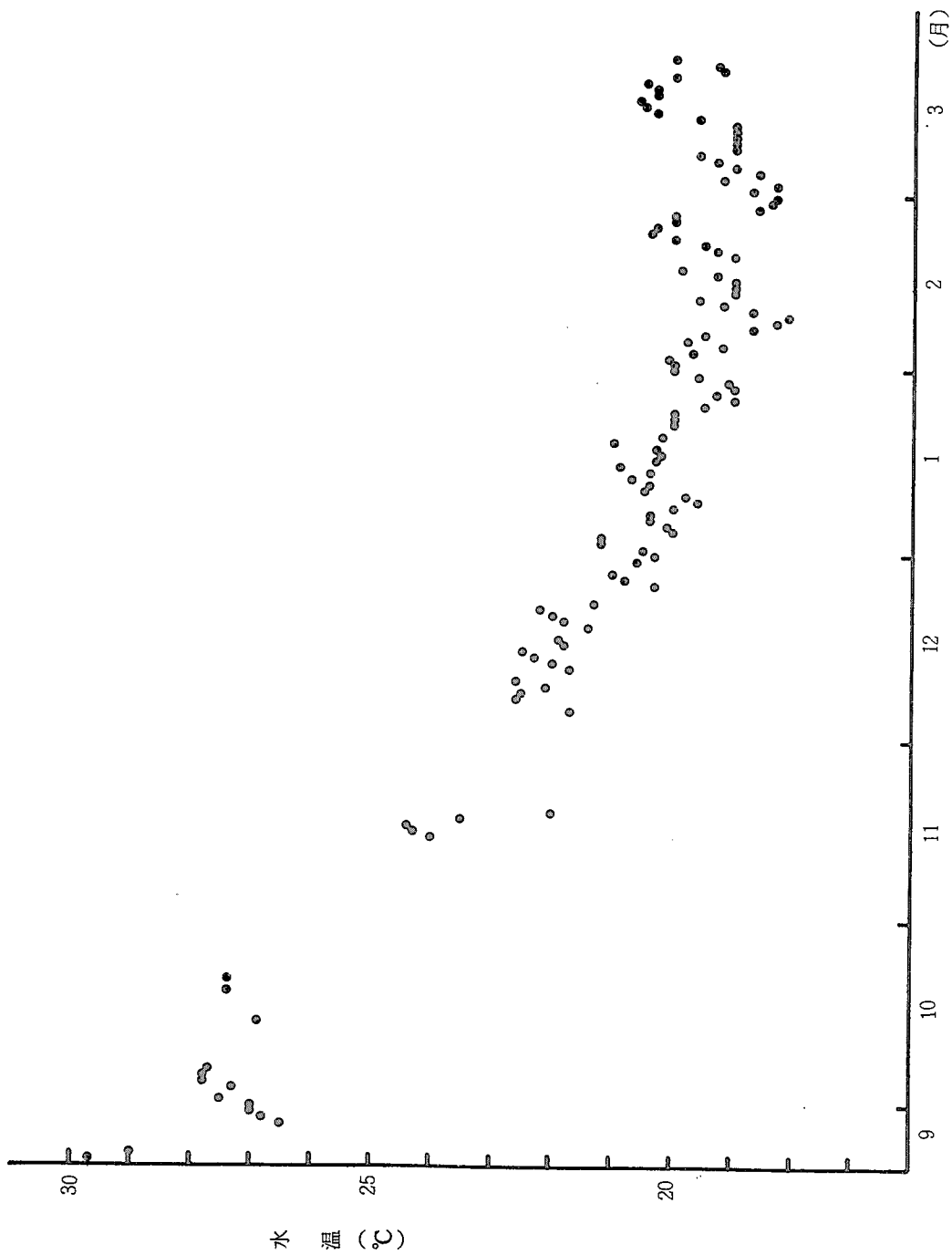
水温はNo.1水槽だけ9:00~10:00の間に測定した。

2 結果及び考察

購入時の親魚の体重は0.7~2.8 kgの範囲で平均2.0 kgと推定され、昭和59年1月5日(購入後約3ヶ月経過)の池替え時の測定では0.8~3.0 kgの範囲で平均2.0 kgとなった。尚年令、雌雄比は不明である。

魚の取扱いが良好であったためか輸送によると思われる斃死は1尾だけで輸送結果は満足のゆくものであった。

養成期間中の水温を図-1に示す。



図一 親魚養成期間中の水温 (ハマフエフキ No. 1)

10月ではほぼ27℃台であった（平均 27.5℃）が11月になると低下しはじめ（平均 23.6℃）翌年1月になると20℃以下になることもあった（平均 20.1℃）。2月になると更に低下し養成期間中最低の 18.1℃（平均19.3℃）を記録し、3月中旬から上昇傾向にある（平均 19.5℃）。

親魚水槽収容後10日目頃より投与餌料の摂餌がわずかに認められ、その後順調に推移した。昭和59年3月19日に白点虫羅病症状が認められたため薬浴を実施したが完治せず37尾が斃死し、3月末日時点で生残数13尾となり、産卵は認められていない。